

1 どういう性格・パーソナリティか

型	性格の側面	弱	強	指数
思索型	内閉性：孤独な面があり内省するタイプ	[Progress bar]		61
	客観性：思慮深く冷静に判断するタイプ	[Progress bar]		50
活動型	身体性：活動的で機敏に動き回るタイプ	[Progress bar]		49
	気分性：気分で行動に変化があるタイプ	[Progress bar]		38
努力型	持続性：何事も粘り強くやり通すタイプ	[Progress bar]		72
	規則性：規則等を重視し行動するタイプ	[Progress bar]		63
積極型	競争性：競争心が強く積極的に動く傾向	[Progress bar]		55
	自尊心：自らのプライドを尊重する傾向	[Progress bar]		41
自制型	慎重性：慎重に見通しをつけて動く傾向	[Progress bar]		73
	弱気さ：考えすぎて遠慮がちになる傾向	[Progress bar]		62

■この人の中心性格は「自制・慎重性」および「努力・持続性」であるが、「努力・規則性」や「自制・弱気さ」といった側面も本人は意識している。

●「自制・慎重性」及び「努力・持続性」の人のパーソナリティスケッチ
 軽はずみな行動はなく、常に慎重を期して物事を対処していくタイプです。自分の感情をむき出しにすることはなく、落ち着いた雰囲気を持っています。何事に対しても自分が納得できるまでは、簡単に受け入れるようなこともしません。状況の変化に対しても軽率ではなく、徹底的に調べてから次の行動に移ります。自分と他人を比較することもなく、人に対しては思いやりを持って接することができます。心優しい人なのですが、何か問題が起ると、いつまでも取り越し苦労をするような気弱な面もあります。仕事にも生活にも几帳面なほうですから、堅実な社会人といった印象があります。最初の瞬発力はそれほどでもありませんが、地道にコツコツと丹念に取り組むことが取り柄であり、継続力が本領といえます。世間的なきまりや秩序も大切にし、常識から逸脱した行動をとることもありません。社会通念にこだわり、そのために斬新さや柔軟性に欠けてしまいがちですが、手堅いアイデアや失敗の少なさなどは評価できることです。

●もう一方の性格特性
 気分屋なところはなく、情緒的にも安定していていつも一定のリズムを持って生活をしているようです。手がけたことは途中で放り出すことなく、最後までていねいに取り組みます。発想も堅実で手堅いイメージです。そのときの感情に流されたり感覚的な判断をしたりすることはなく、理詰めの考え方をします。

<この帳票の見方>

自己分析シートでは、性格、社会性、意欲の側面から診断しています。
 まず1ページ目では、あなたの中心性格を示し、次に日常的な生活場面での行動傾向を述べています。また、あなたの強み・弱みの把握ができるよう、具体的なアドバイスも記述されています。心理イメージに描かれている顔のイラストは、顔と人間の性格についてよく言われる言い回しをもとにあなたのモニターージュを作成しました。外見の顔ではなく、心の顔を絵で写し出そうとしたものです。
 2ページ目では、具体的な職場場面での対応力、自己評価と行動予測をグラフで示しています。対応力や行動予測は、1ページ目の診断結果より、あなたの行動傾向を予測したものです。
 あなたが思う本当の自分とのズレを感じる部分もあるかと思いますが、この診断結果によって、自分を見つめ直し、自己理解を深める機会ととらえて下さい。さらなる向上を目指すには、まず自分自身を知ることが大切です。自分を知り、さらなる向上を目指す手だてとして、ご活用下さい。

2 一般的な場面での社会性

社会性の側面	弱	強	指数
積極性・活発度	[Progress bar]		50
周囲との協調性	[Progress bar]		44
責任感・一貫性	[Progress bar]		71
自分への信頼度	[Progress bar]		44
指導・指示傾向	[Progress bar]		50
仲間との共感性	[Progress bar]		40
感情の安定度合	[Progress bar]		49
他者への従順性	[Progress bar]		55
自ら進んで実行	[Progress bar]		54
社会的自我確立	[Progress bar]		43

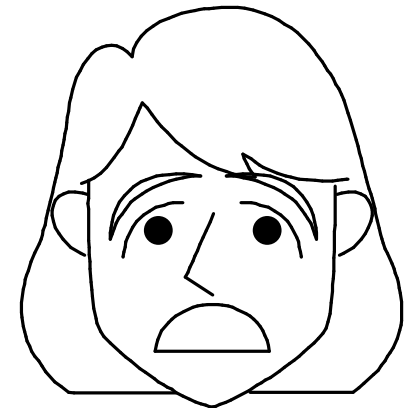
- 「仲間との共感性」について
 仲間との共感性とは、人間関係や環境に対する適応度もいえ集団での仲間意識の尺度を表します。様々な場面で仲間と同じ立場で物事を考えることは組織での共同作業には必要なものですが、この傾向が低い場合は
 ▼他人の行動や発言に無関心であったり、集団の波長に自分を合わせる事が少ない
 ▼勝手な行動をとってしまったり、集団で行う作業などをあまり得意としない
 といったことが考えられます。たとえ関心の薄いことであっても、集団で職務を遂行する上では必要な要件も多々あります。個人的な見解とは別に、周囲の状況に対するアンテナを張り巡らしておくことも必要です。
- 「責任感・一貫性」について
 責任感・一貫性とは、引き受けた任務や役割分担に対する認識度を表し、自らが責任をもって物事を最後まで投げ出さない姿勢を意味します。職務や役割に対する責任感と言い換えられます。この傾向が高い場合は、
 ▼見込みがないことでも、気持ちの切り替えができず、新しい事に控えめになる
 ▼思い入れが強い分、うまくいかない時は、他罰的になるか必要以上に自分に責任を感じてしまう
 といった行動になりがちです。何でも引き受けてしまうと、逆に身動きがとれなくなります。分担すべきところは分担するなど割り切る姿勢も必要です。真剣な一生懸命さはいいいのですが、時には息抜きも必要です。

3 心理イメージ

■心理イメージをイラストであらわすと

- 慎重な性格 → 細面の顔
- 何でも素直に受け入れる → 眉が下がっている
- 状況によって指示的行動 → 普通の眉
- 適度に目標を目指す → 中ぐらいの瞳
- 新しいことにはあまり興味が無い → 下がった目尻
- 目立ちたがり屋ではない → 普通の鼻
- 人に合わせるのが苦手 → 口元が下がっている

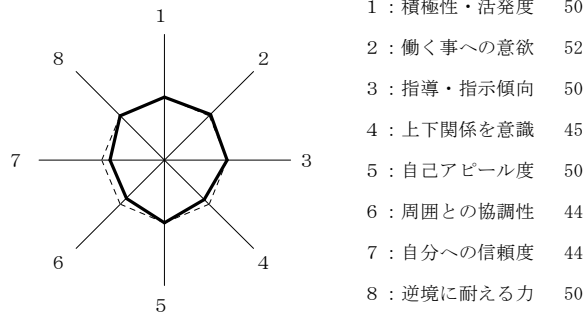
となり、右のような顔ができあがります。



4 仕事場面での対応力

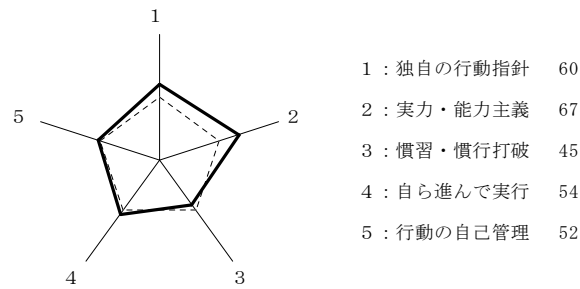
————— : あなたの得点
 - - - - - : 基準(50点)

■何事にも積極的な姿勢で取り組む傾向



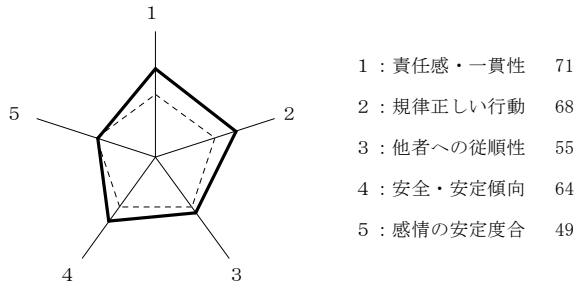
いつもギリギリまでがんばろうとするのですが、途中で何かに引っかかってくじけてしまうことがあります。本来持っている力を最後まで発揮できずにいるように思われます。トラブルが生じたときは受け持っている仕事や役割の意義を再確認し、やり方などを見直してみると、打開策がわかってくるでしょう。

■人に頼らず自分の力で成し遂げる傾向



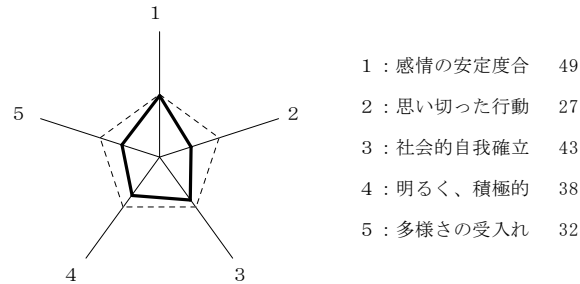
自分の目指すものがはっきりと定まっていて、努力して未来を築いていこうとする様子が感じられます。どちらかというと実力主義で、周囲に流されることを嫌うようです。自分らしい発想ややり方が大切なため、ときには周囲とのズレを感じることもあるかもしれませんが、組織の新しい力となることが期待できます。

■ねばり強く最後までやろうとする傾向



責任感が強く、やると決めたことは最後まで面倒を見るといった姿勢がうかがえます。周囲の出来事に振り回されることもなく、目的を見失うことはありません。精神面での強さが感じられますので、役割や業務に対する認識を強めていくことで、周囲からも頼りにされる存在となっていくことと思われます。

■強い意志を持ち前に進もうとする傾向

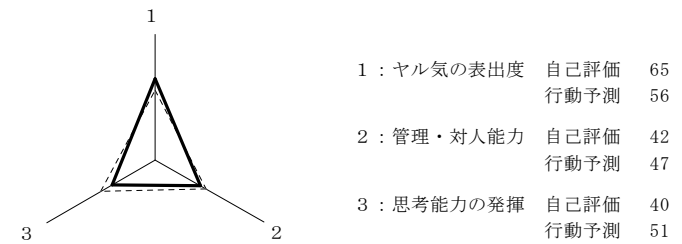


何かあると気持ちがしぼんだり、迷ったりするなどして、途中でくじけてしまうこともあるようです。たとえ時間がかかったとしても、自分なりの考えをまとめたものであれば、それほど簡単にあきらめなくなるはずですが。応援してくれる仲間を見つけるなど、続けていくための環境づくりから始めてみるといいでしょう。

5 自己評価

■自己評価と行動予測の比較

————— : 自己評価
 - - - - - : 行動予測



■ヤル気の出出度について

積極的に仕事を進める能力があり、自分でも自信を持って取り組んでいる様子がうかがえます。どんなことでも、自分で自分をきちんと評価していなければ、本来の力は発揮できません。あなたの行動の結果は、周囲も評価していることと思われれます。目的を見失わず、ますます前進していくことを期待します。ただし、周囲とのバランスには注意したほうがよさそうです。自分の求められている役割や仕事内容について再確認し、一人の考えで突っ走ってしまうことのないように気をつけて下さい。

■管理・対人能力について

周りを引っ張っていくことに自信がなく、苦勞している場面が多いように思われます。困ったことやトラブルが発生したときには、あきらめてしまうのではなく、踏みとどまることが必要です。自分と異なるタイプと付き合うとき、相手の行動パターンが理解できず、不快な感情として受け止めることがあります。仕事場面では利益を共にする仲間としてとらえ、行動を受け入れていくといいでしょう。それにとまって業務がスムーズに進み、自信にもつながってくるはずですが。

■思考能力の発揮について

自分自身を客観的に見ている一面があり、必要以上に過信することはないのですが、反面、自分の限界を勝手にここだと決めてしまい、それ以上の力を出せなくしています。単にわかっているだけではなく、日頃から関係する分野に関する情報収集に努めるといいでしょう。専門知識や技術力などは、一朝一夕で身につくものではありません。小さいことの積み重ねが自信につながります。適当なところであきらめてしまうことなく、ひとつのことを突き詰めて考えてみると、そこから新しい突破口が見いだせます。